

エチレングリコールの市場・業界動向と見通し

市場動向

アジア市場では3月のエチレングリコール(EG)のコントラクト価格としてSabicが1,050ドル/トン、Shellが1,100ドル、MEGlobalが1,100ドルをアナウンスしている。スポット価格は1月に1,000ドル超に高騰し、その後1,000ドルを挟んだ水準で上下している。

北米市場のEG価格(ファイバー・工業用グレード)は1月の42~49\$/ポンド水準から2月は実質7%値上がりし、更に3月は堅調な内需、好調な欧州およびアジア向け輸出に伴う需給のタイト化、原料コストの増大を背景にMEGlobal、Huntsman、Old World Industriesの3社が2~3\$/ポンドの値上げを打ち出した。ただし、今後は中東の新プラントからの供給の拡大が見込まれており、業界筋では4月以降のEG市況は軟調との見通しを示している。

欧州市場では昨年12月に発生したE0プラントのトラブルに加え、季節要因の供給縮小、中東からの輸入品の供給減少などの要因で1月以降は域内の購入意欲が増大、スポット価格は1月末時点で850ユーロに上昇した。コントラクト価格は1月が785ユーロで決着、2月は840ユーロ水準となった。

業界動向

世界のエチレングリコール業界を俯瞰すると、原料にエタンを持ちコスト競争力に勝る中東および内需が拡大する中国を中心とするアジア地域では大幅な新增設が予定される一方、これまで供給国として主要な役割を担ってきた北米、欧州、日本では需要の減退や国際競争力の低下など事業環境の悪化からEG事業の縮小、撤退の動きが急となっている。

サウジアラビアではSABIC傘下のSaudi Kayan Petrochemicalが、エチレン、プロピレンを中心とした年産600万トンの石化コンビナートを2010年中に稼働するが、その構成設備に年産66万トンの大型エチレングリコールプラントがある。

シンガポールでは、Shell Chemicalの現地子会社Shell Eastern Petrochemicals Complexが2010年に入り年産75万トンの新プラントの操業を開始した。

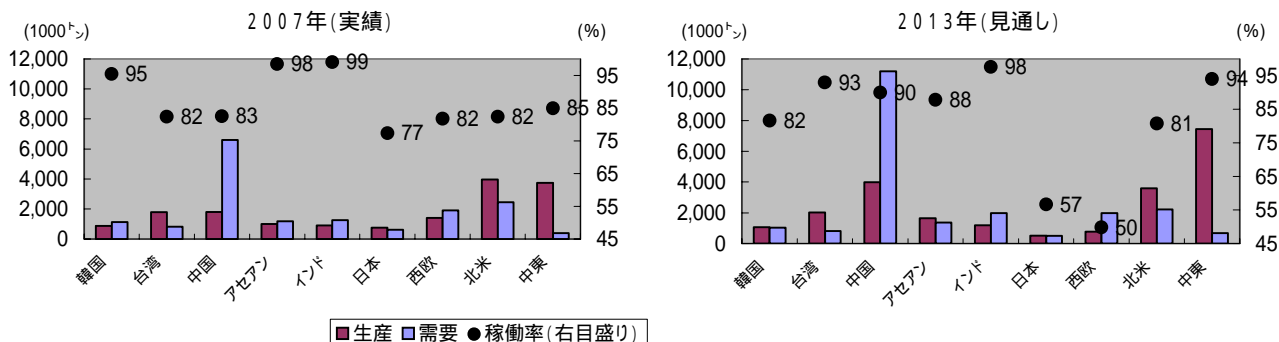
一方、米国ではLyondell ChemicalがDuPontと合併で稼働しているのEGプラント(テキサス州Beaumont、年産36万トン)を閉鎖する。また、Dow Chemicalは、英国Wiltonにある酸化エチレン(E0)およびEG工場を2010年1月末までに閉鎖した。同プラントは1969年ICIによって建設され、1995年にUnion Carbideが買収、2001年からDowが引き継いでいた。

日本でも三井化学が千葉・市原に有するE0/EGプラントを2009年11月をもって停止し、大阪のE0/EGプラントにその生産を集中している。その他の日本メーカーもEGの生産を絞り、より付加価値の高いE0の生産比率を上げることに取り組んでいる。

今後の見通し

2009年8月、経済産業省がエチレン系・プロピレン系誘導品及び芳香族製品等の石油化学製品の世界の需給（需要、生産能力、生産量）動向、見通しをとりまとめた。以下は、そのうちエチレングリコールの需給実績・見通しであるが、ここでも中国の大幅な需要拡大、中東の生産能力の拡大、先進国・地域の生産減少、稼働低下が盛り込まれている。

エチレングリコールの需給・稼働率



2007年実績

- ・エチレングリコールの世界の生産能力は2,069万ト。地域別にみるとアジア計817万ト、北米480万ト、中東441万ト、西欧172万トなど。
- ・生産量は世界計で1,750万トで平均稼働率は85%。稼働率を地域別にみるとインド(99%)、アセアン(98%)、韓国(95%)が高く、中東は世界平均水準の85%。欧米、台・中も82~83%水準にあるが、日本は77%と低い。
- ・需要は世界計で1,780万ト、アジアが中国(660万ト)を中心に合計で1,158万トと大きく、次いで北米245万ト、西欧190万トなど。日本はアジア主要国・地域で最も小さい60万ト。

2013年見通し

- ・生産能力は世界計で2,762万トで、2007年対比33.5%増となる見通し。最も拡大するのが103.1%増で443万トとなる中国、次いで中東が79.8%増の792万ト、アセアンが86.4%増の188万ト、韓国は43.6%増の132万ト、インドは35.2%増の123万ト。一方、先進地域は北米445万ト(7.5%減)、西欧155万ト(9.9%減)、日本93万ト(4.8%減)といずれも減少の見通し。
- ・生産量は世界計で2,341万トで2007年対比33.8%増となる見通し。中東が99%増の745万トで最大の生産地となり、アジアでは中国が121.5%増の398万トで域内最大の生産国となる見通し。アジアではその他の国主要国・地域も二桁増となる見通しであるが、日本は53万トで30.2%減の見通し。先進国は西欧が77万トで45.1%の大幅減、北米も9.2%減の359万トといずれも減少見通し。

・稼働率は世界平均 85%で 2007 年時点と同水準の見通しであるが、西欧（50%）、日本（57%）の稼働率が大きく落ち込む一方、中東（94%）、中国（90%）などは高まる見通し。

・需要は世界計で 32.7%増の 2,362 万トﾝとなる見通し。このうちアジアの需要は 46%増の 1,691 万トﾝで世界の 7 割超を占める見通し。牽引するのは最大消費国の中国（1,120 万トﾝ、69.8%増）、新興国のインド（193 万トﾝ、56.8%増）など。一方、アジアでも韓国（104 万トﾝ、7.4%減）、日本（50 万トﾝ、17.9%減）など先進国は減少見通しとなっている。北米の需要は 9.7%減の 221 万トﾝ、輸出拠点として成長が見込まれる中東は域内需要も 77.1%増の 68 万トﾝで日本の需要規模を上回る見通し。

（担当；業務調査グループ 後藤）